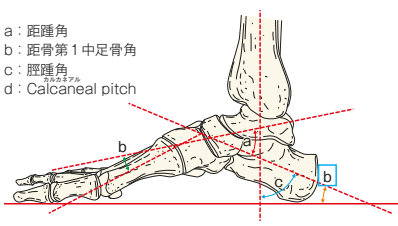
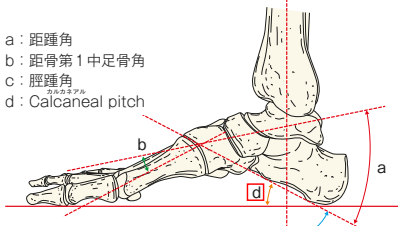


『Crosslink理学療法学テキスト 小児理学療法学』第1版第1刷（2020年10月1日）に誤りがありました。
ここに深くお詫びいたし、訂正申し上げます。

(2022年2月8日更新 メジカルビュー社編集部)

ページ	該当箇所	誤	正
p.70	補足	$(y - x)/y$	$(y - x)/y \times 100$
p.73	図28	<p>a: 距踵角 b: 距骨第1中足骨角 c: 脛踵角 d: Calcaneal pitch</p> 	<p>a: 距踵角 b: 距骨第1中足骨角 c: 脛踵角 d: Calcaneal pitch</p>  <p>「b」の重複を訂正 a,c,dの角度の位置を訂正 (踵骨の軸を表す線の位置を踵骨の下面に訂正)</p>
p.79	図37 c図中	腱の延長	腱膜の延長
p.131	左段下から7行目	SpO ₂ の値である。…	SpO ₂ の値である。…
p.142	右段補足上から7行目	…、刺激が入力されると同じ反応	…、刺激が入力される間同じ反応
p.145	表1 左から3列, 下から2行目の項目	背臥位（頭部後傾位）または腹臥位（頭部前傾位）にする（迷路刺激）。	背臥位（鉛直線に対して頭部後傾位）または腹臥位（鉛直線に対して頭部前傾位）にする（迷路刺激）。
p.148	右段上から4行目	…に腹臥位の状態で	…に背臥位の状態で
p.155	左段上から11～13行目	足底把握反射が消失（統合）し、立位で前足部にも荷重しやすくなり、バランス反応に足趾の動きを加えることが可能となり、…	陽性支持反射が消失（統合）し、立位で下肢が突っ張ってしまうことがなくなり、股関節・膝関節・足関節を使って立位バランスが取れるようになり、…
p.155	左段下から8～6行目	12カ月時には、陽性支持反射が消失（統合）し、立位で下肢が突っ張ってしまうことがなくなり、股関節・膝関節・足関節を使って立位バランスが取れるようになり、…	12カ月時には、足底把握反射が消失（統合）し、立位で前足部にも荷重しやすくなり、バランス反応に足趾の動きを加えることが可能になり、…
p.155	右段上から1行目	歩行・歩行期（1歳、立位での伸展+屈曲→回旋）	歩行・走行期（1歳、立位での伸展+屈曲→回旋）

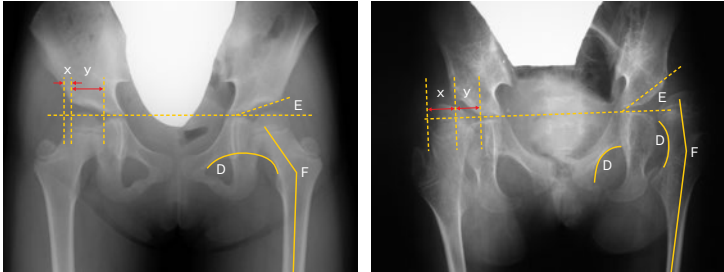
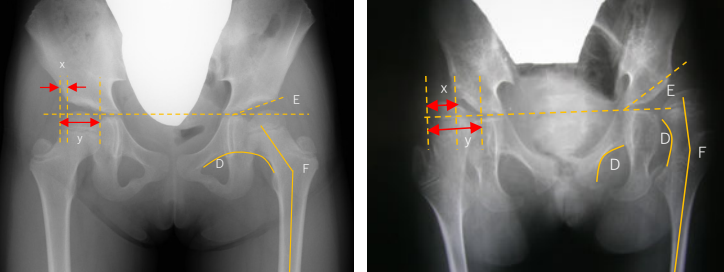
(次ページにつづく)

p.156	左段上から2行目	腹臥位にならずに半側臥位から、…	腹臥位にならずに側臥位から、…
p.156	図11		
p.276	左段下から2～1行目	… (p.61,62参照)。	… (p.70参照)。
p.276	右段上から5, 7行目	行う (p.61参照)。	行う (p.69参照)。
p.277	左段下から5行目	尖足に対しては、腓腹筋腱膜や…	尖足に対しては、腓腹筋腱膜や…
p.287	右段上から6行目	麻痺時において、…	麻痺児において、…
p.336	表1 残存運動機能左から4列目の項目	股関節伸展	膝関節伸展
p.347	補足上から3行目	…、若年性リウマチ、…	…、若年性特発性関節炎、…
p.358	2 POINT下から1行目	肘の屈曲や…	肘の屈曲拘縮や…
p.388	下から9～5行目	0～4.8カ月の乳幼児を対象とする生活全般の発達検査であり、発達6項目（移動動作、手の運動、基本的慣習、対人関係、発語、言語理解）を評価する。保護者への聞き取り、もしくは保護者同席の下で行われる検査である。	生活全般の発達検査であり、発達6項目（移動動作、手の運動、基本的慣習、対人関係、発語、言語理解）を0カ月～4歳8カ月の間で評価する。保護者への聞き取り、もしくは保護者同席の下で行われる検査である。
p.390	表4	膝関節脱臼のダグデールらの分類	膝蓋骨脱臼のダグデールらの分類

『Crosslink理学療法学テキスト 小児理学療法学』 正誤表

『Crosslink理学療法学テキスト 小児理学療法学』 第1版第1刷（2020年10月1日）に誤りがありました。
ここに深くお詫びいたし、訂正申し上げます。

(2021年5月12日更新 メジカルビュー社編集部)

ページ	該当箇所	誤		正	
p.70	図24	 <p data-bbox="714 683 786 699">典型発達児</p> <p data-bbox="1084 683 1155 699">脳性麻痺児</p>		 <p data-bbox="1473 683 1545 699">典型発達児</p> <p data-bbox="1845 683 1917 699">脳性麻痺児</p> <p data-bbox="1850 719 2056 740">yを示す矢印の位置を訂正</p>	

『Crosslink理学療法学テキスト 小児理学療法学』正誤表

『Crosslink理学療法学テキスト 小児理学療法学』第1版第1刷（2020年10月1日）に誤りがありました。
ここに深くお詫びいたし、訂正申し上げます。

（2021年4月8日 メジカルビュー社編集部）


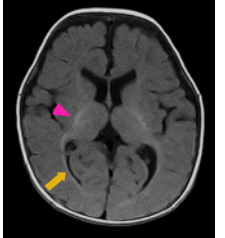




ページ	該当箇所	誤	正
p.171	右段下から6行目	反張膝 (recuatum knee)	反張膝 (recurvatum knee)
p.187	図1	腹側経路 (頭頂葉へ)	背側経路 (頭頂葉へ)

『Crosslink理学療法学テキスト 小児理学療法学』正誤表

『Crosslink理学療法学テキスト 小児理学療法学』第1版第1刷（2020年10月1日）に誤りがありました。ここに深くお詫びいたし、訂正申し上げます。

(2021年1月22日更新 メジカルビュー社編集部)

※2020年10月13日掲載分の正誤内容も下表に含まます

ページ	該当箇所	誤	正
p.31	表1 疾患特異的評価 5. ペルテス病	修正スタルベル分類	修正スタルバ グ 分類
p.80	図24a		 ▲の向きを訂正
p.80	図24c, d	脳梁膨大部 (▲) にも	脳梁前部 (膝部; ▲) にも
p.111	図32		 「頭の高さの差」を削除
p.174	図6	 aは脳性麻痺児でみられた外反母趾。このような状態だと、母趾の爪が内側に食い込み、陥入爪が引き起こされやすい。bでは足趾全体が鉤爪趾 (claw toe) を呈しており、さらに足趾の重なりがみられる。cでは第2趾が槌趾 (hammer toe)、dでは第3、4趾がclaw toeである。	 aは脳性麻痺児でみられた外反母趾。このような状態だと、母趾の爪が内側に食い込み、陥入爪が引き起こされやすい。bでは足趾全体が鉤爪趾 (claw toe) を呈しており、さらに足趾の重なりがみられる。cでは第2趾が槌趾 (hammer toe)、dでは第3、4趾がclaw toeである。 dの位置を訂正
p.251	表11 行動項目	・ベルの音に対する漸減反応 ・非生命的視覚刺激に対する方位反応	・ベルの音に対する漸減反応 ・足の触覚刺激に対する漸減反応 ・非生命的視覚刺激に対する方位反応 赤字の項目を追加
p.271	図34a	低緊張により開背位となる。	低緊張により開排位となる。
p.272	図36	下肢が過剰な開背位となり、	下肢が過剰な開排位となり、